

## 第 32 回中村元東方学術賞審査委員会報告

審査委員会における選考経過をご報告し、併せて授賞理由を申し述べさせて頂きたいと思  
います。さて、この度の選考に際しましては、「中村元東方学術賞」審査委員会委員の先生  
方の他に、これまでに東方学術賞を受賞された方々、さらに一般の方々にも、「中村元東方  
学術賞」に相応しい功績のある研究者の推薦方をお願い致しました。諸先生から推薦された  
研究者は、それぞれにすぐれた業績を挙げられており、選定は困難を極めましたが、慎重な  
審議の結果、皆様にご案内状でご報告申し上げましたように、第 32 回の中村元東方学術賞を  
大阪観光大学教授・佐久間留理子博士に、中村元東方学術特別顕彰として大正大学名誉教  
授・吉田宏<sup>こうまき</sup>博士に授与することに決定致しました。授賞理由は以下の通りであります。

### 佐久間留理子博士「中村元東方学術賞」授賞理由

佐久間留理子氏は神戸市のご出身で、大阪外国語大学（現大阪大学）外国語学部タイ・ベ  
トナム語学科をご卒業後、名古屋大学大学院文学研究科博士課程前期課程東洋哲学専攻（印  
度哲学）に進まれ、名古屋大学大学院文学研究科博士課程後期課程を単位修得、満期退学さ  
れました。

その後も名城大学や愛知学院大学などで非常勤講師として勤めながら研究を継続され、平  
成 13 年に名古屋大学大学院文学研究科に博士学位請求論文『サーダナ・マーラー』にみる  
観自在菩薩の研究』を提出し、博士（文学）の学位を授与されました。その後、佐久間氏は  
同論文の修訂と補充とに努められ、これを平成 23 年 5 月に『インド密教の観自在研究』と  
して山喜房仏書林から出版されました。

同書は 2 部から成り、第 1 部は観自在菩薩を密教的展開まで含めて、文献学、図像学、宗  
教実践の各部門から詳細な検討を加えたものであり、第 2 部はバツタチャルヤ校訂本『サ  
ーダナ・マーラー』に収載された観自在の成就法（サーダナ）と、数本のサンスクリット写  
本中に収録されている観自在の成就法とを翻訳し、検討したものであります。第 1 部、第 2  
部とも単なる言語的文献研究だけでは取り組める内容のものではなく、図像学や、宗教的実  
践についての知識、美術、歴史学、考古学など、幅広い知識と蘊蓄とが必要であり、佐久間  
氏において初めてなし得た業績であるといえましょう。

佐久間氏は、ご自身の専門領域を「仏教文化史」と記されているように、これまで同氏が  
積み重ねてきた論文も、その対象地域はインド、ネパール、チベットと幅広く、内容も大乘  
仏教、密教、ヒンドゥー教などの広範囲に亘っています。このことは中村元先生が仏教・イ  
ンド哲学を思想的にも地理的にも世界的な視野において捉えられたこととよく相応すること  
といえましょう。

また同氏は、平成7年4月から平成24年7月まで財団法人東方研究会の研究者として、同年7月より翌年平成25年8月まで公益財団法人中村元東方研究所研究者として、そして平成25年6月から平成29年8月までは公益財団法人中村元東方研究所専任研究者として研究活動を継続してこられ、他方、平成15年4月から現在まで東方学院講師を勤めてこられ、研究者ならびに東方学院講師として長年に亘って中村元東方研究所の活動を担ってこられた功績は非常に大なるものがあります。

以上の点から佐久間留理子氏を「第32回中村元東方学術賞」授賞者として選定致しました。

### 吉田宏哲博士「中村元東方学術特別顕彰」授賞理由

吉田宏哲博士は、昭和10年、埼玉県本庄市のお生まれで、昭和36年に東京大学文学部哲学科をご卒業、その後、同大学大学院哲学科に進学されましたが、昭和38年東京大学大学院哲学科を中退して大正大学仏教学部大学院修士課程真言学専攻に入学されました。同大学院を修了後、さらに昭和43年東京大学大学院博士課程印度哲学仏教学専攻に入学、昭和46年、同大学院を満期退学。その後、平成3年早稲田大学に博士請求論文『空海思想形成過程の研究』を提出され、博士（文学）の称号を授与されました。

そもそも吉田宏哲博士のご研究は、蔵訳『大日経』と漢訳『大日経』との比較対照研究を基盤とするもので、それぞれの注釈書に基づきながら、『大日経』に関する精緻な研究から、更に弘法大師思想の形成を研究して成果を挙げ、真言教学の確立に貢献せられました。

吉田宏哲博士のご経歴は、昭和46年大正大学非常勤講師に、翌々年の昭和48年に専任講師となられ、昭和50年から2年間の西ドイツ・ハンブルグ大学での研修を経て、昭和55年に大正大学助教授に就任、昭和58年に同大学教授に昇任されました。平成9年、同大学大学院研究科長、平成13年同大学総合仏教研究所長に就任、平成17年に定年退職されるとともに、大正大学名誉教授となられました。また平成21年には同大学常任理事に就任され、大学運営の一翼を担われました。

その間に『弘法大師と現代』（筑摩書房、昭和59年）、『空海思想の形成』（春秋社、平成5年）、『生活の中の仏教』〈智山文庫15〉（真言宗智山派宗務庁、昭和62年）等、多数の業績を出版され、その功績と真言宗へのご貢献を嘉し、真言宗各派総本山会から平成9年密教学芸賞を、平成19年には密教教化賞を、真言宗智山派本山からは平成9年には護持功労章を、平成10年には教学功労章を、平成17年には教育功労賞を、平成28年には護法功労章を受賞されました。

また吉田宏哲博士は学会活動でも顕著な功績を示され、日本印度学仏教学会、日本仏教学会、日本宗教学会などの理事、評議員を勤められたほか、平成12年には日本密教学会理事長に就任せられ、さらに特筆すべきは平成11年6月から同17年6月まで比較思想学会の会長を二期に亘って勤められたことです。同学会は昭和49年に中村元博士が中心となって設立さ

れましたが、中村博士ご自身の言葉を借りて言えば、博士が「一番槍」となってその設立に尽力され、初代会長となってその後の発展に意を注がれたものです。

中村元博士はご著書の『比較思想の軌跡』（東京書籍、平成 5 年）の中で、『三教指歸』を著し、また『秘密曼荼羅十住心論』において心の十の発展段階を示した空海について「比較思想という試みをわが国で行ったのは弘法大師空海である。さらに比較思想の体系的論述を世界で最初に行ったのも弘法大師であるということが言えよう。」（509 頁）と述べられています。

比較思想の体系的論述を世界で初めて行ったというわが国弘法大師空海の思想解明と、その普及に学問的にも実践的にも深く関わってこられた吉田宏哲博士のご行跡は、中村元博士の意にぴったりと沿うものであると言えます。

以上のように、吉田宏哲博士は蔵漢二訳の『大日経』及びその注疏の比較研究を基にして発展的に空海思想の解明と普及に尽力され、ご自身も西光山無量寿院宥勝寺の住持として実践を重ねつつ、積極的に学問的成果を収めてこられ、それらを刊行されました。そのみならず、吉田宏哲博士が(公財)中村元東方研究所ならびに東方学院に対してなされたご貢献、とくに監事としてのご支援は特筆すべきものがあり、東方学術特別顕彰に相応しいものと判断致します。

以上